



被災した石巻市立病院へ場外着陸する群馬ドクターヘリ(前橋赤十字病院 DMAT)



被災した石巻市立病院から患者を搬送する群馬ドクターヘリ(前橋赤十字病院 DMAT)



花巻空港でドクターヘリの運航調整を行う前橋赤十字病院 DMAT



活動後の定期ミーティングに参加する群馬県支部救護班(石巻赤十字病院)



学校内の仮設救護所で診療を行う群馬県支部救護班(宮城県石巻市)



震度6弱の余震後避難所を巡回する群馬県支部救護班(岩手県山田町)



被災者に寄り添いこころのケアをする群馬県支部救護班の精神科医師(岩手県山田町)



巡回診療を行う群馬県支部救護班(岩手県釜石市)



巡回診療を行う群馬県支部救護班(岩手県釜石市)



巡回診療を行う群馬県支部救護班(岩手県釜石市)



被災者に寄り添い話を聴く群馬県支部救護班(岩手県釜石市)



避難所で被災者と話をする群馬県支部救護班(岩手県釜石市)



診療継続が困難となった福島県南相馬市大町病院の入院患者62名を受入(前橋赤十字病院)



避難所の床で疲れた体をマッサージする接骨師奉仕団(岩手県山田町)



発災直後から情報収集活動を行う群馬県アマチュア無線赤十字奉仕団



発災直後から被災地の情報収集活動を行った赤十字飛行隊群馬支隊

ぐんまの赤十字

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。 Together for humanity

発行：日本赤十字社群馬支部 〒371-0833 前橋市光が丘町 32-10 電話 027-254-3636
URL http://gunma.jrc.or.jp/

第12号
平成24年2月1日



東日本大震災 日本赤十字社の活動

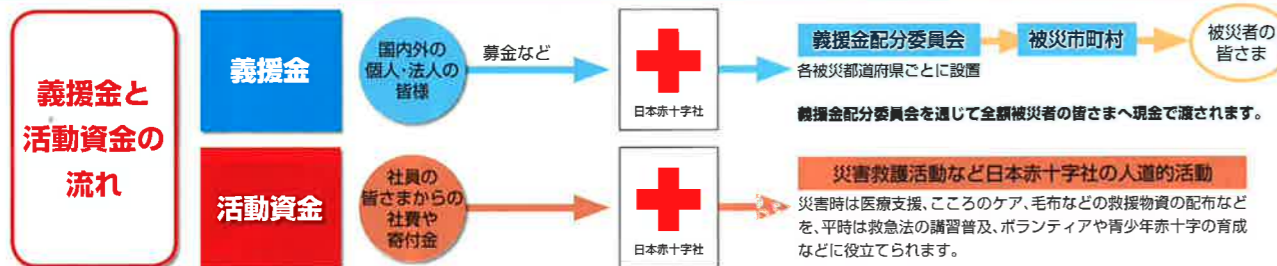
平成23年3月11日(金)午後2時46分、宮城県三陸沖でマグニチュード9.0という我が国の観測史上最大の地震が発生しました。日本がかつて経験したことのない巨大地震がもたらした大津波は、三陸海岸を中心とした多くの町を一瞬で飲み込み、戦後最悪の被害をもたらしました。

被災地では、医療施設までもが破壊され、住民の健康維持や負傷者救護が危機に瀕する地域もありました。そうした中、日本赤十字社は、被災者の近くで、被災者のいのちと健康を守り、生活再建を支える取り組みに総力を挙げてきました。

そこに、守りたい命がある。

ご理解ください ～義援金と活動資金～

日本赤十字社では東日本大震災義援金を募集していますが、「義援金」の行く先や「活動資金」との違いは、どうなっているのでしょうか？



※日本赤十字社の活動は、赤十字の人道的な活動にご賛同いただいた皆さまから寄せられた活動資金(ご寄付)によって賄われています。



日本赤十字社の主な取り組み

日本赤十字社では、医療救護班の派遣をはじめ、以下のような活動を行いました。

医療救護班の派遣

全国から医療救護班が出勤し、被災地で活動しました。

| 救護班数 | 取扱患者数 |
|------|---------|
| 935班 | 87,445人 |

介護チームの派遣

被災地の施設に介護士を派遣して、日常介護業務の支援を行いました。

| 派遣班数 | 派遣人数 |
|------|------|
| 15班 | 67人 |

赤十字ボランティア

被災地での炊き出しやがれき撤去、募金活動などを行っています。

| ボランティアセンターの運営 | ボランティア活動 |
|---------------|-----------|
| 約3,600人 | 約160,000人 |

こころのケア要員の派遣

被災された方々のこころのストレスを軽減する活動を行いました。

| 派遣者数 | かかわった人数 |
|------|---------|
| 718人 | 14,039人 |

救援物資の配布

避難生活に必要な毛布や日用品を配布しました。

| 毛布 | 緊急セット | 安眠セット |
|----------|-----------|-----------|
| 132,510枚 | 30,972セット | 13,500セット |

義援金(平成24年1月20日現在)

全国から義援金をお預かりする窓口となり、被災都道府県へ届けています

| 日赤本社の受付金額 | 群馬県支部での受付金額 |
|----------------|-------------|
| 約3,073億5,109万円 | 約22億7,849万円 |

※義援金は、全額が被災された方々のお手元に届けられ、手数料などを取ることは一切ありません。

群馬県支部の主な取り組み

群馬県支部では、地震発生当日に前橋赤十字病院救護班を被災地へ向けて派遣したのを皮切りに、延べ25 班の医療救護班を派遣しました。また、発災後直ちに救援物資を被災地に搬送するとともに、被災地の災害対策本部の支援活動などに職員を派遣しました。

【救護班の派遣】

| No. | 派遣期間 | 派遣先 | 所属 | 主な活動状況 |
|------|-----------------|-------------|--------------------------------|----------------------------|
| 第1班 | 3/11(金)~3/13(日) | 福島医大・花巻空港 | 前橋赤十字病院7名(ドクターヘリ1名)・支部1名 | (※DMAT)ヘリ運航調整 |
| 第2班 | 3/12(土)~3/15(火) | 福島医大・花巻空港 | 前橋赤十字病院3名(ドクターヘリ要員) | (DMAT)ヘリ運航調整、ドクターヘリによる患者搬送 |
| 第3班 | 3/13(日)~3/15(火) | 福島医大・花巻空港 | 前橋赤十字病院6名(病院支援→ドクターヘリ要員) | (DMAT)ヘリ運航調整、ドクターヘリによる患者搬送 |
| 第4班 | 3/14(月)~3/15(火) | 岩手県 花巻空港 | 前橋赤十字病院2名(ドクターヘリ要員) | (DMAT)ヘリ運航調整、ドクターヘリによる患者搬送 |
| 第5班 | 3/14(月)~3/15(火) | 岩手県 花巻空港 | 前橋赤十字病院2名(ドクターヘリ要員) | (DMAT)ヘリ運航調整、ドクターヘリによる患者搬送 |
| 第6班 | 3/13(日)~3/16(水) | 宮城県 石巻赤十字病院 | 原町赤十字病院7名・支部1名 | 救護所診療、巡回診療 |
| 第7班 | 3/15(火)~3/18(金) | 宮城県 亘理町 | 前橋赤十字病院7名・支部1名 | 救護所診療、巡回診療 |
| 第8班 | 3/17(木)~3/21(月) | 宮城県 石巻赤十字病院 | 前橋赤十字病院8名・支部1名 | 救護所診療、巡回診療 |
| 第9班 | 3/20(日)~3/24(木) | 宮城県 石巻赤十字病院 | 前橋赤十字病院7名・支部1名 | 巡回診療、病院救急外来支援 |
| 第10班 | 3/20(日)~3/21(月) | 群馬県産業技術センター | 前橋赤十字病院2名・支部1名 | (DMAT)南相馬市大町病院患者受入調整 |
| 第11班 | 3/21(月) | 群馬県産業技術センター | 前橋赤十字病院9名、原町赤十字病院3名、防災ボランティア7名 | (DMAT)南相馬市大町病院患者受入調整 |
| 第12班 | 3/26(土)~3/30(水) | 宮城県 石巻赤十字病院 | 原町赤十字病院7名・支部1名・接骨師奉仕団1名 | 救護所診療、巡回診療 |
| 第13班 | 4/ 5(火)~4/10(日) | 岩手県山田町 山田高校 | 前橋赤十字病院8名・支部1名・接骨師奉仕団1名 | 救護所診療、巡回診療 |
| 第14班 | 4/10(日)~4/15(金) | 岩手県釜石地区 | 前橋赤十字病院8名・支部1名・接骨師奉仕団1名 | 救護所診療、巡回診療 |
| 第15班 | 4/16(土)~4/20(水) | 岩手県釜石地区 | 前橋赤十字病院8名・支部1名・接骨師奉仕団1名 | 救護所診療、巡回診療 |
| 第16班 | 4/22(金)~4/26(火) | 岩手県釜石地区 | 前橋赤十字病院8名・支部1名・接骨師奉仕団1名 | 救護所診療、巡回診療 |
| 第17班 | 4/28(木)~5/ 2(月) | 岩手県釜石地区 | 原町赤十字病院7名・支部1名・接骨師奉仕団1名 | 救護所診療、巡回診療 |
| 第18班 | 5/ 4(水)~5/ 8(日) | 岩手県釜石地区 | 前橋赤十字病院8名・支部1名・接骨師奉仕団1名 | 救護所診療、巡回診療 |
| 第19班 | 5/10(火)~5/14(土) | 岩手県釜石地区 | 前橋赤十字病院8名・支部1名・接骨師奉仕団1名 | 救護所診療、巡回診療 |
| 第20班 | 5/16(月)~5/20(金) | 岩手県釜石地区 | 前橋赤十字病院8名・接骨師奉仕団1名 | 救護所診療、巡回診療 |
| 第21班 | 5/22(日)~5/26(木) | 岩手県釜石地区 | 前橋赤十字病院8名・接骨師奉仕団1名 | 救護所診療、巡回診療 |
| 第22班 | 6/ 3(金)~6/ 7(火) | 岩手県釜石地区 | 前橋赤十字病院7名 | 救護所診療、巡回診療 |
| 第23班 | 6/16(木)~6/19(日) | 福島県会津若松市 | 前橋赤十字病院5名 | 巡回診療 |
| 第24班 | 7/5(火)~7/12(火) | 福島県いわさ市 | 前橋赤十字病院9名 | 福島第一原発で想定される事故に対するDMAT派遣 |
| 第25班 | 7/23(土)~7/25(月) | 福島県南相馬市 | 前橋赤十字病院4名 | 原発警戒区域内での救護活動 |

※救護班の1個班は、通常医師1名、看護師3名、事務要員2名の計6名(精神科医、薬剤師などが加わることもあります)からなり、被災地に到着次第、情報を収集し、被災者の救護活動にあたります。
※DMATとは…災害の急性期(概ね48時間以内)に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた災害派遣医療チーム

【支援要員の派遣】

| No. | 派遣期間 | 派遣先 | 所属 | 主な活動状況 |
|-----|-----------------|--------------|---------------------------|---------------------|
| 1 | 3/12(土) | 日赤宮城県支部 | 血液センター2名 | 救援物資搬送 |
| 2 | 3/17(木)~3/19(土) | 日赤福島県支部 | 支部職員1名 | 被災支部(福島県支部)支援 |
| 3 | 3/25(金)~3/27(日) | 日赤福島県支部 | 支部職員1名 | 被災支部(福島県支部)支援 |
| 4 | 4/ 1(金)~4/ 3(日) | 日赤福島県支部 | 支部職員1名 | 被災支部(福島県支部)支援 |
| 5 | 4/ 9(土)~4/11(月) | 日赤福島県支部 | 血液センター職員1名、防災ボランティアリーダー1名 | 被災支部(福島県支部)支援 |
| 6 | 4/17(日)~4/19(火) | 日赤福島県支部 | 血液センター職員1名、防災ボランティアリーダー1名 | 被災支部(福島県支部)支援 |
| 7 | 4/25(月)~4/27(水) | 日赤福島県支部 | 血液センター職員1名、防災ボランティアリーダー1名 | 被災支部(福島県支部)支援 |
| 8 | 5/ 3(火)~5/ 5(木) | 福島県会津保健福祉事務所 | 血液センター職員1名 | 会津地区災害医療調整本部支援 |
| 9 | 5/ 3(火)~5/ 8(日) | 岩手県釜石地区 | 支部職員1名 | 第2ブロック支部現地災害対策本部調整員 |
| 10 | 5/22(日)~5/26(木) | 岩手県釜石地区 | 支部職員1名 | 第2ブロック支部現地災害対策本部調整員 |
| 11 | 5/23(月)~5/27(金) | 福島県会津保健福祉事務所 | 血液センター職員1名 | 会津地区災害医療調整本部支援 |
| 12 | 6/ 6(月)~6/12(日) | 岩手県釜石地区 | 支部職員1名 | 第2ブロック支部現地災害対策本部調整員 |
| 13 | 6/18(土)~6/24(金) | 岩手県釜石地区 | 支部職員1名 | 第2ブロック支部現地災害対策本部調整員 |
| 14 | 6/30(木)~7/6(水) | 岩手県釜石地区 | 支部職員1名 | 第2ブロック支部現地災害対策本部調整員 |
| 15 | 7/15(金)~7/21(木) | 岩手県釜石地区 | 支部職員1名 | 第2ブロック支部現地災害対策本部調整員 |

【南相馬市大町病院患者の受け入れ支援】(再掲)

| No. | 派遣期間 | 派遣先 | 所属 | 主な活動状況 |
|-----|-----------------|-------------|-------------------------------------|-----------------------|
| 1 | 3/19(土)~3/20(日) | 前橋赤十字病院 | 前橋赤十字病院職員103名 | 患者受入、転送医療活動(患者数62名) |
| 2 | 3/21(月) | 群馬県産業技術センター | 前橋赤十字病院8名、原町赤十字病院3名、支部1名、防災ボランティア7名 | 患者受入調整、転送医療活動(患者数62名) |

【日本赤十字社群馬県支部救護班等 活動場所一覧】



いのちを守り ところをつなぐ

~赤十字が一丸となって活動~

日本赤十字社は地震発生と同時に、職員を被災地に派遣し被害の実態の把握に努めるとともに、医師、看護師からなる医療救護班も現地向け派遣しました。

全国から派遣された救護班は、各地の災害対策本部と調整しながら被災者の避難所となっているところに駆けつけて救護所を開設、中・軽症者に対して手当てを行い、重傷者に対しては受け入れ可能な医療施設を捜し、搬送するなど懸命な活動を展開しました。また開設した救護所を拠点とした巡回診療も展開しました。

一方、赤十字病院は無論のこと、岩手、宮城、福島の3県では地元の主要医療施設に医療スタッフの応援部隊として救護班を派遣しました。

現在までに、全国から延べ900を超える医療救護班が被災地で救護活動を行い、現在も福島県警戒区域への一時帰宅者の救護活動を実施しています。

